

未来へ「つなぐ」

校長だより

令和3年度（2021年度） 4月27日

蕪城小学校 No.2

蕪城小学校 教育目標 長子配付

未来を生き抜く人間の育成

～進んで考え、協働して課題を解決する子の育成～

目指す児童像（社会性を育む）

- ・考える子 考え伝え、進んで学び合う子
- ・やさしい子 規律正しく思いやりのある子
- ・たくましい子 健康・安全な子

毎日の小さな目標の達成から一年間の大きな成長へ！

4月23日（金）の授業公開にたくさんの保護者の皆様に参観を頂きありがとうございました。また、新型コロナウイルス感染予防のため制限のある中ご協力頂き感謝申し上げます。

4月一人ひとりの児童や学級は新たな目標や決意をもって新年度をスタートしました。

本校の教育活動の充実、そして、子どもたちの成長に向け、教職員一同、一日一日を大切に3密を防ぎ工夫しながら情熱をもって取り組んでいきたいと思ひます。

保護者の皆様には引き続き本校の教育活動に対する温かいご支援とご理解を頂きますよう、よろしくお願い致します。

毎日一人ひとりの児童が自分の良さを活かし

自分のめあてをもち、できることをどんどん増やしていくことができれば良いと考えています。そのためには、教職員や保護者の皆様で私たち大人が子どもたちと共に目標や目の前のことに率先垂範し、大人の行動で望ましい行動を子どもに示し、着実に取り組み、子どもたちの将来の夢や大きな目標が成し遂げられるよう、この一年工夫をしながら一日一日小さな目標の達成をさらに積み重ねていきたいと思ひます。



児童会生活委員会による朝のあいさつ運動

近年、教育の上で、「非認知的能力」の大切さが重要視され、学力向上に繋がる能力や社会に出た時に企業が求める能力とされています。具体的には、「自分で自分の行動を律する力、計画をたてて実行する力」「最後まであきらめずにやりとげる力、忍耐力」「意欲」等があります。

家庭の社会経済的背景について、文部科学省からお茶の水女子大学への委託による学力調査と保護者調査（抽出）の**分析結果の一部**をご紹介します。（～時事通信社「内外教育」より～）

学力上位の子どもの家庭環境として、例が挙げられています。①規則的な生活習慣（毎日早寝をさせる。毎日朝食を食べさせる。テレビやゲームの時間やルールを決めている。決めたことを子どもが守っているか関心をもち、確認する。②非認知スキル（自制心や意欲、忍耐力など）を高める働きかけ＝良いところを褒めて自信を持たせる。努力することや最後までやり抜くことの大切さを伝える。自分と異なる意見や少数意見の良さを生かしたり、折り合いをつけたりする。③知的好奇心の刺激＝子どもに本や新聞を読むように勧める。小さい頃絵本の読み聞かせをした。外国語や外国の文化に触れるように意識している。④しっかりと家庭学習＝計画的な勉強を促す。復習を重視。

そして、これらを支える家庭での前提として、⑤子どもとの会話が深い（学校、友達、将来、世の中の出来事など）学校行事や地域の活動に親子で積極的に参加する、などがあります。

子どもの生活規律を正し、非認知スキルを高めることや知的好奇心を刺激することが、子どもの学力を高め、将来性を広げることに繋がります。大人である保護者の皆様が率先して手本となる姿を子どもに見せたり、子どもの様子をしっかりと把握したり、子どもにきっかけや気づきのポイントを伝えたり、励ましの言葉をかけたりしていただけると有り難いです。

ゴールデンウィークを控え、事故や事件にまきこまれないように、交通安全や不審者への対応等安全について気をつけることを各ご家庭でお子様にご確認いただきますようお願い致します。